

授産施設における生産活動の現状と課題に関する調査研究

川崎医療福祉大学 医療福祉デザイン学科 平野 聖 青木 陸祐
山陽学園短期大学 キャリアデザイン学科 末廣 健一

【要旨】

授産施設における生産活動の現状について把握するために、アンケート及びフィールドワークを実施したところ、以下の調査結果が得られた。

1. アンケート

1.1 生産活動について

(1) 施設規模

5名から15名未満の施設が26カ所と調査対象施設全体の54.2%を占めている。50名以上の大規模施設は1カ所のみであった。

(2) デザイン導入

内部開発19施設、外部デザイナー導入3施設、発注先2施設、特になし23施設であった。

(3) 勤務体系

平均収入は月額116,945円、平均勤務年数(訓練期間)は7.7年であった。

(4) 経営状態・営業実績

経理等経営管理システム導入施設は全体の34%と少ないが、その平均月収は132,557円であり、全体平均を15,612円上回っている。

(5) 販路

直販が70%で大半を占める。ネット通販は、今後拡大するものと期待される。

(6) 公報宣伝活動

チラシの占める割合が36.0%で、トップである。次いでネット利用が29.8%ある。

(7) 購買層

典型的な顧客として、施設の存在する市内在住の40代から50代の女性が浮かび上がる。

1.2 施設環境について

広さ、採光、照明、換気すべてについて、各種基準以上を確保できており、良好な作業環境であると思われる。この理由は身体障害者授産施設の設置基準があり、さらに建築基準法の規準を遵守すれば、作業環境が良好な施設が整備されるからだと思われる。

2. フィールドワーク

今回のフィールドワークを通じて、パッケージデザインの改善等あと少し商品的な魅力が加われば、市販の商品と遜色なく勝負できるレベルに達しているものも発見できた。今後は、いわゆるバザー商品との差別化を図ることのできるブランド化戦略の導入等を視野に入れつつ、側面的な支援を続けたい。